

## F1-28

## “万葉線版太陽系ウォーク”による沿線活性化案 “Solar system walk” for the Manyosen vitalization

大橋 純平<sup>1</sup>, 柴田 吉輝<sup>1</sup>, 中山 晴幸<sup>2</sup>  
Jumpei Ohashi<sup>1</sup>, Yoshiki Shibata<sup>1</sup>, Haruyuki Nakayama<sup>2</sup>

Abstract: Manyosen is a railway running through the Takaoka City and Imizu City. Now, Takaoka's main urban area lies the “north” side of Takaoka Station that along Manyosen. However, Hokuriku Shinkansen’s new station will be established at a position of about 1.6km “south” by Takaoka Station. So it is expected that main urban area moves to “south” side of Takaoka Station and the number of Manyosen passengers decreases. This report considers the Manyosen vitalization referring to events taking place in Mitaka City.

### 1. はじめに

万葉線は、富山県高岡市・射水市を走る鉄道である。(Figure1) 現在、高岡の市街地は高岡駅の北側、万葉線沿いに広がっている。

しかし、来年度に開業する北陸新幹線の金沢延長による新駅（新高岡駅）は、高岡駅から南に約 1.6km の位置に設置される。そのため中心地の南側への移行による旅客の減少が見込まれ、それに対する方策の検討が急務となっている。

本報告は、ゼミナールで“イベント”や“沿線企画”などの面から万葉線の PR を行う手法について検討を重ねてきた。ここでは、本年 8 月 30 日に万葉線株式会社において発表したイベント案のうち、「万葉線版太陽系ウォーク」について発表する。



Figure1. The car of Manyosen (MLRV)

### 2. 検討項目の観点

本チーム内で、以下の 2 つの立場に立った観点から複数のイベント案について検討してきた。

#### ①北陸の圏外（主に三大都市圏）の人々へ向けたイベント

：主に北陸新幹線開業に伴う観光需要の増加を見込むイベント

#### ②万葉線沿線地域（富山・石川）の人々へ向けたイベント

：万葉線沿線地域の新たな魅力の創出による観光需要の増加を見込むイベント

本稿では、②の観点から提案した「万葉線版太陽系ウォーク」について発表するものである。

### 3. 太陽系ウォークについて

東京都三鷹市には、自然科学研究機構の国立天文台があり、2007 年から“みたか太陽系ウォーク”と呼ばれるイベントを実施している。運営組織は、自治体、科学者、商店会・商工会の三者一体の実行委員会から組織されており、スタンプラリーで景品をもらえる仕組みとなっている。スタンプラリーでは、公共施設や研究機関をはじめ、個人の商店に設置されている。特に商店においては、スタンプを押しにくる参加者への割引やサービスの提供を行っている。これを、万葉線沿線に応用してみようというのが、「万葉線版太陽系ウォーク」である。

### 4. “万葉線版太陽系ウォーク”について

“万葉線版太陽系ウォーク”は、太陽系惑星の最も遠方にある「海王星」を射水市の観光テーマパーク「海王丸」に見立てて、高岡駅前電停（高岡駅改良工事後は高岡駅に置き換える）に直径 2 m の太陽が存在したら、という仮定のもと、太陽系を万葉線でめぐることが想定している。

太陽系の縮尺を、4.5 億分の 1 で考えた場合では、高岡駅前電停を万葉線が発車してまもなく水星、金星を通過し、金星と地球の軌道で囲まれる地球エリアに到達する。万葉線の最初の駅である末広町は、地球の軌道に近い位置にあり、さらに火星軌道は片原町付近ということが分かる。地球は太陽系惑星の中でも比較的太陽に近い位置にあることが理解しやすい。(Figure2.)

このように、沿線に太陽系の軌道を模したゾーニングを行うスタンプラリーイベントで協力店舗にスタンプを設置して何らかのサービス提供を考えれば、万葉線の利用者にとっては、「海王丸パーク」までの距離感と太陽系の大きさを実感できるとともに、スタンプラリーも楽しめることになる。また協力店舗側は、万葉線を利用した新たな顧客の発掘に繋がる可能性が高く、こちらに対してもメリットが考えられる。



Figure2. Planet area map around the Takaoka Station

### 5. 関連イベントとのタイアップ

こういったイベントでは宇宙への興味・関心を高める講演会や天体観望会などのイベントとのタイアップを行うことで、さらなる需要の増加や太陽系ウォークへの参加者を増やすことができると考えられる。(Figure3.)

万葉線沿線では、毎年 9 月に高岡市民観望会というイベントが実施されている。このイベントは、富山県天文学会が主催しており、大小さまざまな望遠鏡が夜空の星をターゲットに入れている。このような星空イベントや天文学者を招いてトークショーを行う「サイエンスカフェ」などとのタイアップが可能であると考えられる。

先行事例として“みたか太陽系ウォーク”では、すでに上述のようなイベントを開催期間中に行っている。



Figure3. The event about the universe (stargazing party)

### 6. 本イベントの展望 -みたか太陽系ウォークの実績から考える

東京都三鷹市で行われている太陽系ウォークでは、年々規模も参加者数も増加している。昨年の開催をもって 4 回目の実施となった“みたか太陽系ウォーク 2012”では、参加店舗・施設が 185 か所、参加者数が 1,629 人、マップの総配布数がおよそ 1 万 2 千枚となった。

万葉線沿線では、初めは小規模でも少しずつイベントを大きくしてゆき、最終的には 3 市と万葉線、地元の天文関連施設・団体が一体となり多くの乗客を獲得できるイベントとなり、万葉線を含め、沿線の“にぎわい”を創出する一助になることを期待する。

### 7. 参考文献

- [1]”みたか太陽系ウォーク” <http://www.taiyokei-walk.jp/>
- [2]”三鷹ネットワーク大学最近の主な実績” <http://www.mitaka-univ.org/info/result.pdf>
- [3]”富山県天文学会” <http://www.toyama-tenmon.com/>